

Garrard 401 の再構成(21)

—カートリッジの交換—

1. はじめに

前報(20)においてゲイン不足の解消のため、カートリッジを ZYX R100-EX に替えましたが、さらに別のカートリッジに替えてみます。

2. Garrard 401 の再構成の試聴方法

前報(20)では、フォノステージを Leak Pont1 とした場合、ゲインが小さいので、カートリッジが Ortofon SPU Royal N から ZYX R100-EX に替えました。

Garad401(ZYX R100-EX)→My Sonic STAGE 1030→Leak Pont1→TruPhase
今回、さらにアームの FR-64S が重量級、重針圧のカートリッジに向いているということで Ortofon SPU Synergy に替えてみます。

Garad401(Ortofon SPU Synergy)→My Sonic STAGE 1030→Leak Pont1→
TruPhase

経過として、Ortofon SPU Royal N (0.2mV)→ZYX R100-EX (0.24mV)→Ortofon SPU Synergy(0.5mV)と出力を上げ、Leak Point1 のゲイン不足に対応してきたことにもなります。

なお、Leak Pont1 のアースはアースアキュライザーで仮想アースの Crystal E に接続しています。

また、TohrensTD124 のフォノケーブルが設置位置の関係から中継で延長していることを軽減するために Garad401 と位置を入れ替え、TohrensTD124 をフォノイコライザーの ZANDEN Model 120 に近づけました。Garad401 はトランスが介在しており、フォノケーブルの引き出し長さの影響は受けません。

今回、カートリッジの変更に加えて、アームの FR-64S を心持ち持ち上げて、アームとアームベースの間に、アームダンパーとして毛糸を挟み込んでみます。

また、この機会にアームの CD クリーナー処理を施します。

試聴音源は下記を使用します。

LONDON SLC 1138

ファリャ 三角帽子

アンセルメ指揮スイスロマンド

ARCHIV(日本ポリドール) 28MA 0020

J.S.Bach チェンバロ協奏曲

トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート

harmonia mundi (Deutche) KUX-3248-H

ミトマニア

ベーレン・ゲスリン

キングレコード SKA-104

愛と自然の歌

倍賞千恵子

LONDON 360R 56009

モーツアルト デヴェルティメント第 17 番

ウィリー・ボスコフスキー指揮ウィーンモーツアルト合奏団

3. Garrard 401 の再構成の試聴結果

カートリッジを Ortofon SPU Synergy に替えた STAGE 1030 経由の Leak Pont1 のフォノステージの再生では、カートリッジのゲインが上がりましたので、TruPhase のヴォリュームの音圧を稼げます。

ファリャの三角帽子は、打楽器や拍手など、音の立ち上がり、立下りも十分で、ベルガンサの位置その他の空間表現も明瞭です。

バッハのチェンバロ協奏曲は、Garad401 と SPU Synergy の組み合わせから予想されるより、緻密で繊細な表現が可能になっています。

ミトマニアは、中世の古謡の男女の歌唱に勢いがあり、古楽器の質感も十分で、歌手とバックの古楽器群の定位も明瞭です。

倍賞千恵子は、伸び伸びとした歌唱が再生され、細かいニュアンスも出ています。

モーツアルトのデヴェルティメント第 17 番は、これまでの SPU Synergy の印象を超えたボスコフスキー指揮ウィーンモーツアルト合奏団のウィーン風の美音を聴かせてくれます。

なお、Leak Pont1 はトーンコントロールがありますので、一定程度、盤毎のバランスの調整が可能です。

4. まとめ

Garad401 と Leak Pont1 のフォノステージでカートリッジを Ortofon SPU Synergy に替えるとゲイン不足の問題は解消する方法になり、Garad401 の再生でも、これまでのアースアキュライザーなどの効果を確認することができました。

以上